

確実な対応に向け「厳冬期消火訓練」を実施

当社は、2月3日（金）リサイクル燃料備蓄センター構内において消火訓練を行いました。

この訓練は、火災発生時の対応訓練の一環として、冬場の厳しい環境であっても、万一の事態へ確実に対応ができることを目的としたもので、今回で3回目となります。

今回は、18名の社員が訓練に参加し、使用済燃料貯蔵建屋脇に設置されている防火水槽のマンホール蓋の開放、消防ホースの接続、動力消防ポンプの設置、起動・給水、放水を実体験しました。また、貯蔵建屋内での火災に対して迅速な消火活動のため、消防ホースの展張訓練を行いました。

私たちは、安全を第一義として、事業開始に向けて全社を挙げて取り組んでいます。今後ともこのような訓練を積み重ねることで、対応力、技能を向上していきます。



防火水槽の状況確認

防火水槽は、毎日欠かさず点検・雪かきを実施しています。厳冬期であっても蓋が確実に開放できるかなどを確認しました。



動力消防ポンプ操作訓練（実放水）

気温はマイナス3℃、積雪が4.0センチメートルの中、放水で描かれたアーチからの水しぶきが冷たく粉雪のように訓練者に舞い降りてきていました。

〔担当からひと言〕



阿部防災管理担当部長

私たちは、火災、地震、その他災害発生の対応を的確に行うための訓練を行っていますが、今回は、厳冬期での消火訓練を実施しました。こうした訓練を積み重ねることで、安全に対する意識を高めています。